

授業科目名	地域創生実習	担当教員	瓶内 栄作 古賀 弥生 富樫 佳織 小島 寛大
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2年 第4クォーター		
講義内容	<p>地域創生とは、将来を見据えつつ、地域がそれぞれの強みと魅力を活かし、活力を持てる社会を実現できるように、環境形成を目指し、心豊かな暮らしを実現していく活動のことを指す。この実習では、自治体での地域創生における取組について、自ら体験をしながら学習する。</p> <p>対象自治体に出向き、地域創生についての取組の視察や、専門家や教員の指導を受けつつ、活動への関与を通じて、地域の持つ課題や、課題に対応する地域創生の現実的な取組について学ぶ。</p> <p>指示に基づきながらも、自らができることを考え、主体的に行動することによって、最終的には取組内容について、独自の考察を加えたレポートを作成し、実習先に対してプレゼンテーションを実施する。</p>		
到達目標	<p>実習先地域の有する課題について、理解することができる。</p> <p>社会課題を政策に転換するプロセスについて、理解することができる。</p> <p>実習先における地域創生の取組について、理解することができる。</p> <p>事業や施策に関する調査・分析を実施し、改善提案等の企画立案ができる。</p> <p>実習先職員やその関与先との円滑なコミュニケーションを実践できる。</p> <p>自らの体験に基づき、独自の考察を加えたレポートを作成できる。</p> <p>レポートについて、実習先職員等を交えプレゼンテーションを実施できる。</p>		
授業計画	<p>本科目はカリキュラム再編前後により、「A：2025年度以降カリキュラム」と「B：2021年度～2024年度カリキュラム」の開催パターンがある。両者は場所単位で区別をし、募集時に明示する（例：〇〇県民局はA：2025年度以降カリキュラムで開催する）</p> <p>2025(令和7)年度以降入学者はAを受講できる。2021(令和3)年度～2024(令和6)年度入学者はBを受講できる。</p> <p>(A)2025(令和7)年度以降入学者</p> <p>本実習は9日間を現地での実習期間としている。限られた期間での実習であるため、事前準備をして、効率的な行動が求められる。</p> <p>1. 学内でのオリエンテーション 2. 現地訪問 1日目 現地でのブリーフィング、見学</p>		

	<p>3. 現地訪問 2 日目 地域の有する課題についての学習</p> <p>4. 現地訪問 3 日目 地域創生の実践現場視察</p> <p>5. 現地訪問 4 日目 地域創生の取組についての実践</p> <p>6. 現地訪問 5 日目 社会課題を政策に転換するプロセスについての学習</p> <p>7. 現地訪問 6 日目 自らの考察について自治体職員との意見交換</p> <p>8. 現地訪問 7 日目 レポート資料作成(基本構想)</p> <p>9. 現地訪問 8 日目 レポート資料作成(資料完成)</p> <p>10. 現地訪問 9 日目 プレゼンテーション資料作成</p> <p>11. 学内での学習成果発表(プレゼンテーション実施)</p> <p>※実習期間内では、現地での調査や作業に加え、8 時間程度の学内または在宅での作業を実施する</p> <p>(B)2021(令和 3)年度～2024(令和 6)年度入学者</p> <p>本実習は 5 日間×2 週を現地での実習期間としている。限られた期間での実習であるため、事前準備をして、効率的な行動が求められる。</p> <p>1. 学内でのオリエンテーション</p> <p>2. 現地訪問 1 日目 現地でのブリーフィング、見学</p> <p>3. 現地訪問 2 日目 地域の有する課題についての学習</p> <p>4. 現地訪問 3 日目 地域創生の実践現場視察</p> <p>5. 現地訪問 4 日目 地域創生の取組についての実践</p> <p>6. 現地訪問 5 日目 1～4 日目の振り返り</p> <p>7. 現地訪問 6 日目 社会課題を政策に転換するプロセスについての学習</p> <p>8. 現地訪問 7 日目 自らの考察について自治体職員との意見交換</p> <p>9. 現地訪問 8 日目 レポート資料作成(基本構想)</p> <p>10. 現地訪問 9 日目 レポート資料作成(資料完成)</p> <p>11. 現地訪問 10 日目 プレゼンテーション資料作成</p> <p>12. 学内での学習成果発表(プレゼンテーション実施)</p>
事前・事後 学習	<p>事前に対象自治体の特性について、WEB サイト等を閲覧し理解を深めておくことが望ましい。</p> <p>参考文献を読んで、概要について理解しておくこと（特に兵庫県地域創生戦略については但馬県民局についての箇所を読む）。</p>
テキスト	特になし
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県地域創生戦略（実習時点での最新版を使用） ・対象自治体の地域創生総合戦略 ・世界一やさしい問題解決の授業 渡辺健介 ダイアモンド社(2007)
成績評価 の基準	<p>実習の態度(30%)、報告書ならびにプレゼンテーション資料(50%)、プレゼンテーション(20%)により評価する。</p>

履修上の注意 履修要件	地域創生論を履修済みであることが望ましい。 実習先の皆様は日常業務に大変忙しい中、皆さんの学びの場を提供するためにご協力いただいている。礼節をもって接し、失礼がないように心がけること。
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	実習先の都合により内容は変更になる場合がある。また参加希望者が多い場合は事前に抽選を行う。